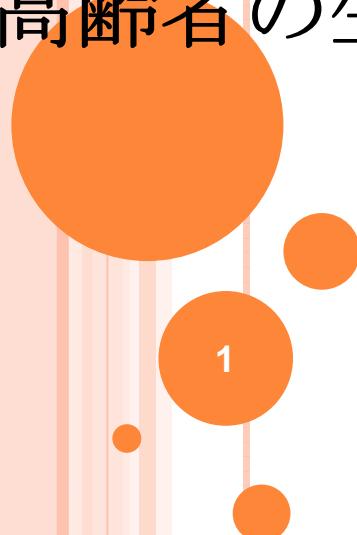


日本の高齢者は 「健康な生活を維持する」ための情報を どのように得ているか？

(高齢者の生活に即して)

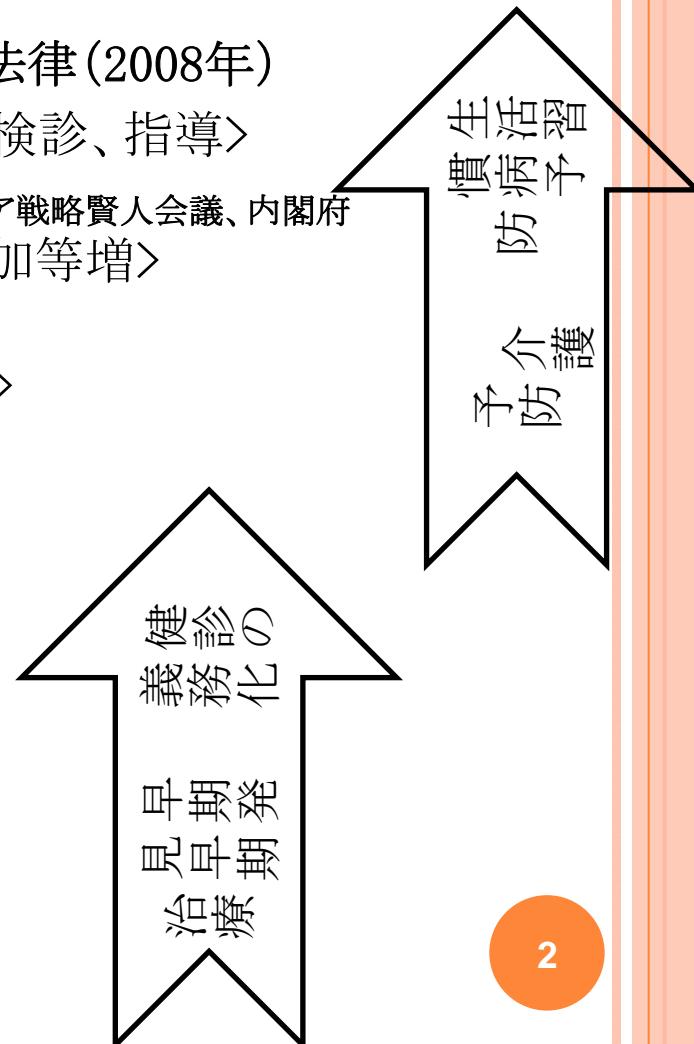


2009年7月13日

ILC-Japan

高齢者の「健康づくり」の重点 法律と国民運動

- ・特定健康診断スタート 高齢者の医療の確保に関する法律(2008年)
<メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)を対象に検診、指導>
- ・新健康フロンティア戦略(2007年-2016年) 新健康フロンティア戦略賢人会議、内閣府
<高齢者の目標:アルツハイマー受療率、介護予防参加等増>
- ・健康増進法(2003年)
<国や自治体に健康計画策定義務、受動喫煙防止等>
- ・健康日本21(2000年-2012年) 厚生労働省
<目標:適正体重維持、食塩摂取減、野菜摂取増等>
- ・老人保健法(1982年)
<40歳以上の健康教育、健康診査>
- ・労働安全衛生法(1972年)
<検診義務、医師が事業者に指導・助言>
- ・老人福祉法(1963年)
<老人健康診査実施>
- ・労働基準法(1947年)
<労働者に対する健康診断を事業者に義務化>



高齢者に提供される 「健康な生活を維持する」ための情報

国・地方自治体	企業内	医療機関 介護施設	公益法人	メディア
自治体・保険者による検診 保健指導	健診、保健指導	相談窓口	健康、スポーツ講座,イベント	テレビ
保健所による 相談、アドバイス	退職前の生涯生活充実のためのセミナー	介護教室		新聞
地域包括支援センター 介護予防				雑誌

健康・医療などの情報を得る場所

健康・医療などの情報を得る場所 上位5か所

ILC-Japan 「高齢者日常生活継続調査」2004 医療・福祉情報を得る場所 (75歳-79歳, N=300)		神奈川県 「健康・栄養調査」2003 生活習慣改善・健康づくりの情報を得る場所 (70歳以上, N=701)
1	家族(26.4%)	テレビ(25.4%)
2	新聞・テレビ・ラジオ(23.7%)	新聞(16.7%)
3	医療・介護関係者(13.7%)	医療機関(12.4%)
4	友人・知人(10.3%)	家族(9.8%)
5	自治体(6.7%)	雑誌・本(9.3%)

新聞、テレビ

3分で分か
る体脂肪

メタボリック症候
群解消シンポジ
ウムの報告



喘息のコン
トロール講
座案内

心の健康、コミュ
ニティーでできる
こと 講座案内

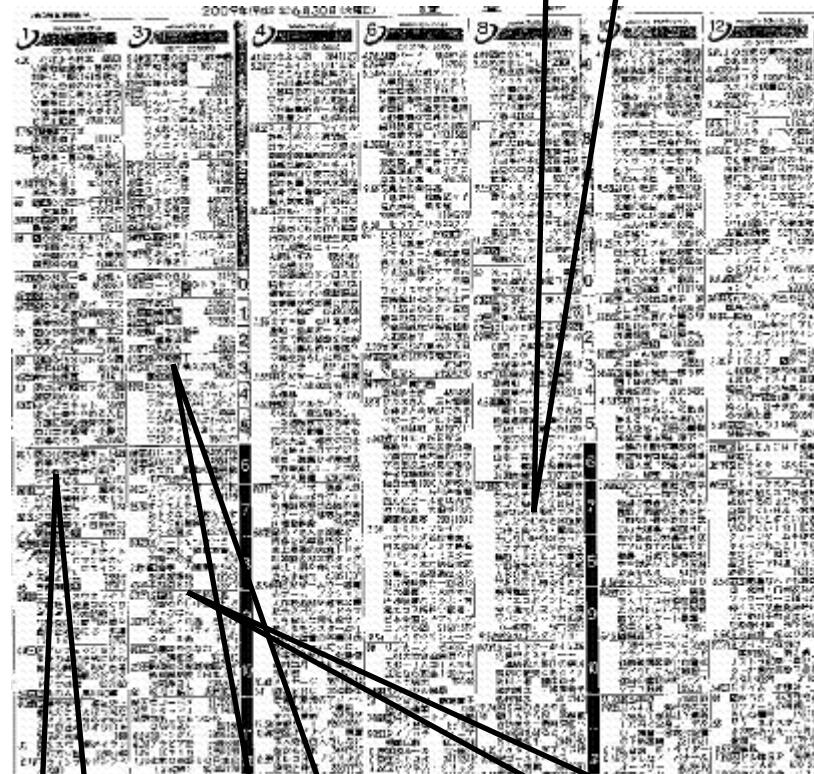
介護で悩む男性

健康講座、
福祉講座

内臓脂肪と
生活習慣病

日本の新聞の発行部数: 読売新聞(9.96million)、朝日新聞(8.02million)、毎日新聞(3.86million)…全国紙計(45,16million)他に地方紙約9million

テレビの場合、人気のある健康番組は視聴率10%以上で、10million人以上が見ている



中高年対象 健康雑誌

月刊 24万部



月刊 15万部



月刊 10万部



スクワット

内臓脂肪
大研究

耳鳴り解消



地方自治体広報紙

住民全員に毎月健康・医療・福祉情報を提供



シニア向け
トレーニン
グ教室

介護予防相
談会、体
操の紹介

介護予防
相談会、
生活機能
測定



胃がん検
診案内

乳がん検
診案内

健康講演
会「肝疾
患につい
て」

老人精神
健康相談

病院、介護施設におけるサービス

○ 社会福祉法人 源風会(病院、介護施設を運営)の例



認知症の人本人と家族の集い
・介護講座、本人と家族の話し合い
(毎月1回開催、地域の住民対象)

介護支え合い電話相談
(年間4,639人から相談<2007>、
全国の家族介護者対象)

職場・地域の定期健康診断、保健指導



職場の定期健康診断

http://www.murata-brg.co.jp/gallery/2008/09/post_114.html



胸部レントゲン撮影車

<http://www.mgh.jp/kouhou/no39.html>

65-74歳の健診受診率(2004):男性62.0%、女性61.4%

健診を受けなかった理由:①心配な時はいつでも受診できる(41.6%)、②毎年受ける必要を感じない(11.6%)、③めんどう(10.0%)、④時間が取れない(8.3%)

公益法人によるイベント、講演会

「ねんりんピック」(高齢者スポーツ大会)
参加選手約1万人 每年開催
長寿社会開発センター(政府系公益法人)



「認知症についての講演会」

毎年4都市で開催 各回約1200人参加
住友生命健康財団(保険会社系公益法人)

スマセイ シニアライフセミナー

認知症予防を考える

基調講演：「認知症の正しい情報と予防」

長谷川 和夫

(精神科医師/精神保健センター名董センター長)

講 演：「認知症で悩む看護を」

矢巻 直美

(東京保健長寿医療センター チーム医師)

座 論：「春風亭 正朝

体験講座：各地のインストラクターの皆さん

2009年6月 福岡市、7月 下関市、9月 松本市、11月 富山市
2009年1月 手嶋吉市

メッセージ

認知症とは「(元もわからなくなったりした人)」ではありません。誰がいつ何時何處で心の中に隠れて、だれも想像することができない人の心をもうちょっと見えておきたいのです。そして認知症の人たちの心をもう少し見えておきたいために、一人ひとりが努力をやさしくえさせておきたいのです。

長谷川 和夫

参加者の主な質問

認知症について

・認知症は進行や軽重に関係がありますか？

・認知症を止めるか、遅らせる方法や薬はありますか？

自分のこと

・人の名前がなかなか思い出せません。病院に行くべきですか？

・私は認知症気味ですが、どのくらいまで一人で暮らしていけますか？

家族の対応

・家族の相手はどうすればいいですか？

・本人が介護サービスを利用できません。施設に行かせることになりますか？

介護施設の職員

・認知症の方のうちではない方が一薬の空間にいます。どのようなサポートが必要でしょうか？

・私は 22 歳で、同じことを何度も繰り返されるのが対応に悩みます。認知症の方の対応方法を教えてください。